



日本歯科大学 (新潟病院
医科病院)

Vol.43
2020.12.1

アイヴィ通信

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～

在宅ケア新潟クリニック院長に 就任して

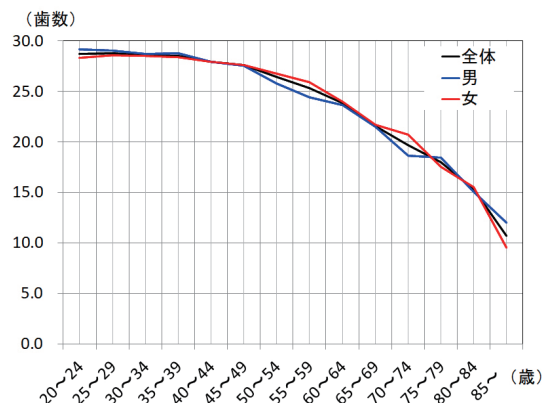
在宅ケア新潟クリニック
院長
寺田 員人



2020年4月1日、黒川裕臣先生の後任として、在宅ケア新潟クリニック院長に就任しました。今年は、新型コロナウイルス感染により今までとは違った新しい日常生活を求められています。感染拡大予防としてのワクチンの開発が急務となっています。歯科においても予防は重要です。健康寿命の延伸には、口腔の各種機能の維持が欠かせません。その鍵は、歯です。歯は重要な役割を担っています。歯科医師会が8020運動を開始して、30年が経過しました。厚生労働省による平成28年歯科疾患実態調査結果から、年齢別でみた歯の保有数(現在歯数)を図に示します。50代から歯の喪失が増え、65歳以降でさらに加速していることが伺えます。注意しなければならないのは、子どもの時では皆さんがほぼ同じ時期に歯が生えるのと違い、歯の喪失は個人差の大きい変化です。口腔ケアをしている人は、変化が緩やかなことは当然です。歯を失うことの原因の多くが、歯周病とう蝕(虫歯)です。日頃の予防で、防ぐ、あるいは進行を遅らせることができる疾患です。働き盛りである40代から口腔ケアの効果が出てきているとグラフから考察されます。

現代では、費用対効果を考えた行動・計画が求められています。すなわち、個人個人にあった施策(医療)となるわけです。歯科においても施設ごとにその根拠となる客観的なデータを絶えず更新する必要があります。そのため、本クリニックにおいても住民の皆様に提供できる客観的な成果(客観的なデータ)を集積し、解析を行い、皆様に還元していきたいと思っています。

引き続き同クリニックにご支援、ご協力のほど宜しくお願いいたします。





がんチャリティーイベント 「リレー・フォー・ライフ」 オンライン開催!

●新潟病院口腔外科
講師

小根山隆浩



今年のがん征圧・がん患者支援チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020にいがた」は、新型コロナウイルス感染拡大により、オンラインでの開催となりました。例年、新潟県スポーツ公園カナル広場で、リレーウォークやがん啓発のためのブース出展など様々なイベントが行われていましたが、今年はそれができませんでした。

リレー・フォー・ライフは、1985年にアメリカで始まった、がん征圧・患者支援のためのチャリティーイベントです。がんサバイバーへの祝福(祝う)、がんで亡くなった人への追悼(偲ぶ)、がんの予防や検診の啓発(立ち向かう)の3つが大きなテーマとなっており、新潟では2005年より開催され、今回で6回目となりました。

9月21日の14:00にオンラインで開始となりました。プログラムは、がんについてフリートークを行う「がんカフェ」、オンデマンドによる「オンラインセミナー」、「伊勢みずほ夫妻による対談」、「応援メッセージ動画」などの配信が行われました。

「応援メッセージ動画」は、実行委員会より、がん患者さんやがんサバイバー(がん経験者)、ケアギバー(がん患者の支援者)の方への応援メッセージ動画の作成依頼があり、日本歯科大学新潟生命歯学部・新潟病院チームとして応援メッセージ動画を作成しました。当チームは「がんに向かいよう!」をスローガンとして毎年参加しており、「がんに向かいよう!」の横断幕と掛け声を繋いだ応援動画としました(写真)。

19:00からはがんで亡くなった方を偲ぶ「エンプティータブル」が行われ、このイベントのみ新潟県スポーツ公園カナル広場からの生配信で行われました。翌9月22日の7:30に閉会となりました。

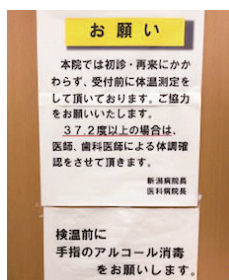
オンラインでの参加者は約270名、募金は約100万円ということでしたが開催できてよかったと思います。来年はどのような開催になるのかわかりませんが、がん治療や教育を行っている日本歯科大学新潟生命歯学部・新潟病院チームとして参加する予定です。皆さんも一度参加されてはいかがでしょうか。





安全な歯科診療のために

～新潟病院での新型コロナウイルス対策～



今春から広がっている新型コロナウイルスの感染防止のため、病院に来院される皆様にもたくさんのご協力をいただいております。新潟県においての発生は多くないものの未だ安心できない状況です。さらに冬を迎えインフルエンザにも注意が必要になってきました。

皆様に安心・安全な歯科治療をご提供するためにどのような感染防止対策を行っているかをご紹介します。

病院玄関から総合受付までの通路を通られるすべての方に体温測定を行います。併せて手のアルコール消毒とマスク着用の確認をさせていただきます。

発熱(37.2℃以上)の場合には担当歯科医師が直接問診し状況を判断いたします。

診療各科受付では風邪症状や他県との交流履歴などを問診票でお伺いします。

それらを十分把握したうえで診療を行います。特に歯科治療では歯を削ったりスプレーを使用するなど飛沫による汚染が考えられますのでマスクや顔を覆うシールドのほか帽子、ビニールエプロンなどを装着して診療する場合があります。診療の前後は診療椅子をはじめ周囲機器まで区切られたユニット内を十分に消毒液で清拭消毒しています。

病院全体では、待合室や総合受付のソファ 玄関に設置してある車いす 自動受付機・会計機 エレベーターのボタンや手すりなど皆様の手に触れる部分を日に数回消毒します。

コロナへの対策が日常となりつつある昨今ですが、診療を安心して受けていただくためには皆様からのご協力も大変重要です。

- マスクの着用
- 手洗いと手の消毒
- 咳エチケット
- 待合室などで隣との距離を保つ
- 体調などを正しくご報告いただく

などお守りいただけます様よろしくお願いいたします。
また、院内で気になる点などご意見を頂けると幸いです。





ご自宅から、担当医に 診察してもらう事が可能に

●在宅ケア新潟クリニック
診療科長

高田 正典



日本歯科大学新潟病院では、オンライン診療を開始いたしました。2020年4月7日に閣議決定された「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」を具体化したものです。これによって時限的・特例的な措置であるものの、オンライン診療は、他者との接触を避ける事ができるため、医療機関への受診を躊躇する方の手段として注目されています。

具体的にオンライン診療とは、これまで対面診療（主治医と直接対面で診療する行為；いわゆる外来診療）

を診察や診断行為を、情報通信機器（パソコン、スマートフォン、タブレットなど）を通じて遠隔にしながらリアルタイムに実施する行為となります。

ウィズコロナ社会の中、新しい生活様式に対応するための診療体制ですが、全ての方に対応することではありません。オンライン診療には限界と制約があります。また、窓口で支払う一部負担金もクレジットカード決済が原則とされています。ご興味のある方は、担当医もしくは総合受付までお声をかけてください。

なお、この診療によるメリットは次ようになっております。

- 病院への移動時間や待ち時間がない
- 通院負担を減らし治療継続のサポートが可能
- 様々な理由で通院が難しかった方へ受診が可能
- 病院へ受診する事無く、診療を受けることで二次感染防止
- 症状、状況によって対面診療へ移行可能なため、医療の室の担保

オンライン診療の結果、医療の室を担保するため、症状に応じて来院をお願いする事や他の医療機関への受診をお勧めする事があります。医療の限界もある為、予めご了承ください。

最後に診療の流れを次に示します。

①対面診療

予め対面診療（いわゆる外来診療）を行った方に対し、オンライン診療が有用な場合、オンライン診療のメリット・診療計画・費用等の説明を行います。

②予約受付

患者さまが同意された場合、オンライン診療用アプリの登録（患者自身）。そのアプリからオンライン診療の予約。

③オンライン診療

予約時間になったら情報通信機器（パソコン、スマートフォン、タブレットなど）より、オンライン診療を開始。本院より、患者さまの通信機器へ連絡して開始となります。



訪問歯科診療におけるICTを 活用した医療介護連携

●訪問歯科口腔ケア科
講師

赤泊 圭太



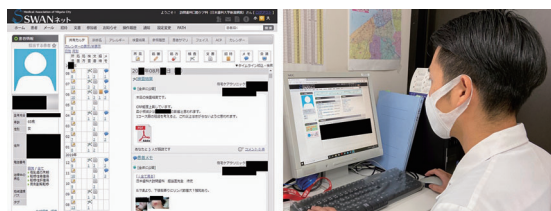
現在、わが国の高齢化率は28%を超え、厚生労働省は高齢者が住み慣れた街で自分らしく生活していけることを目標とした地域包括ケアシステムの構築を推進しています。特に医療と介護の連携が重要視されており、歯科においては訪問歯科診療のニーズが高まっています。

訪問歯科診療は、病気やケガなどの理由で通院できない患者さんが対象で、在宅生活を支える医療と介護のさまざまな専門職種が協働する「多職種連携」が重要となります。多職種連携の方法はさまざま、手紙での情報のやり取りが一般的ですが、医療と介護の連携では、定期的、臨時的にカンファレンスを開催し、対象患者さんを担当する医療と介護のスタッフ同士が顔を合わせて話し合う機会も多くなっています。さらに、近年では通信技術を用いた情報共有（ICT）を活用した多職種連携も普及してきており、本学もSWANネット（スワンネット）というシステムを導入・運用しているので、ご紹介します。

SWANネットは、登録された患者さん毎に個別ページが作成され（図1）、その患者さんを担当する各専門職種がそのページを共有し、情報を閲覧します。患者さんの情報はSNSのようにタイムラインで表示され、対象患者さんを訪問した際に投稿することで、それを閲覧した多職種がリアルタイムに患者さんの状態を把握できるようになっています。また、投稿に対して質問やコメントが入力できるため、ネットワーク上で多職種連携を構築できることが最大のメリットといえます。

現在の歯科医療は、むし歯や歯周病、入れ歯の治療だけでなく、「食べる」「話す」といったお口の機能を守ることに力を入れており、お口の健康管理を通して生活機能の向上に努めています。特に、口腔ケア、口腔リハビリテーション、食支援は、歯科が積極的に取り組んでいる分野であり、他の専門職からも期待されているところと感じています。しかし、お口の健康管理は歯科単独で成し遂げられるものではなく、他の職種の方々やご家族との協力は欠かせません。歯科が毎日患者さんのお宅を訪問することは少ないため、日常のお口のケアや食事を担当される介護職の方々やご家族からの情報はとても貴重であり、ICTの活用によって、これらの情報を迅速に受け取れる点は、歯科医療において有用と考えられます。

2025年には3人に1人が後期高齢者という時代を迎えようとしています。歯科医院の受診率は後期高齢者で急激に減少しており、お口のトラブルを抱えたまま通院できない方が在宅にはたくさんおられます。高齢者の生活支援には多職種連携が必須であり、本学もICTを活用し、迅速かつ質の高い歯科医療の提供を目指し、患者さんのお口の健康に貢献していきたいと考えています。



●図1

新潟
病院

臨床研修歯科医師の



第37回

生活習慣を見直すことでできる 虫歯・歯周病予防

総合診療科

●高橋 天佑 ●大野 寛 ●相田 亮平

新 型コロナウイルスの世界的な流行により、外出の制限やイベントの縮小など、日常生活に大きな変化が起きています。そこで今回は、今の生活を見直すことでできる虫歯・歯周病の予防方法をお話させていただきます。

ご 自宅にいる時間が多くなり、ついつい間食をとることが増えてしまいがちですが、だらだらと食べ続けると、お口の中が酸性になり歯が溶けやすくなることで虫歯のリスクが高まります。それを食い止める役割を持つのが唾液です。時間を決めて食事をとることで唾液の歯を強くする成分が働きやすくなります。また、食事の際には軟らかいものだけを食べずに、しっかりと噛み応えのある食材も食べることで、唾液の分泌量が増えます。もちろん歯磨きは虫歯と歯周病予防の基本です。毎食後、歯ブラシだけでなく歯間ブラシや糸ようじも使って、お口の中の汚れをしっかりと取りましょう。

ま た、自粛によりストレスがたまりやすくなっていると思います。ストレスによって体の抵抗力が低下するために歯周病菌に侵されやすくなり、また睡眠時など気づかぬうちに歯ぎしりをしたり、歯を強くかむことが多くなるため、歯周病の進行を早めてしまうこともあるのです。ストレスをためないためには十分な睡眠をとったり、ストレッチなど屋内でできる軽い運動をしたりするのもいいかもしれません。

自 粛しなければならないという環境の中で、生活が乱れがちになっていると思います。前述したように生活習慣の乱れは虫歯や歯周病のリスクを高めてしまうことにつながります。つまり、きちんとした生活習慣がお口の健康において大切な要素となるわけです。ご自身のお口とお体の健康のために日々の生活習慣を見直してみたいはいかがでしょうか。

編集
後記

■日本海側に住んでいると、寒い時期に空気が乾燥していると気付く事は少ないような気がします。もとは太平洋側に住んでいましたので、寒い時期は皮膚がカサカサになることが多くありました。新潟の女性の肌が綺麗なのは、寒い時期の空気の乾燥が少ないのが影響していると思います。2020年は大変な年でしたが、2021年は皆様にとって良い年になりますように。



日本歯科大学新潟病院・医科病院

アイヴィ通信



発行日／令和2年12月1日 発行人／山口 晃 大越 章吾
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)